

## 第1章 震災後5年を迎えた仮設住宅自治会の現状と課題 — 檜葉町アンケート調査を中心に—<sup>1)</sup>

### 1.1 各仮設住宅自治会の概要

本章では5年目を迎えた檜葉町仮設住宅の入居者がどのような状況であるかを、2012年から継続して実施している自治会役員へのヒアリング調査と2015年秋に実施した仮設住宅入居者へのアンケート調査の両面から、その規模別で把握するとともに2015年9月5日に檜葉町内全域が避難指示解除となるなかで、仮設住宅自治会がどのような役割を果たすべきかを検討したい。

檜葉町民が入居する仮設住宅は町同士が協定を結んでいる会津美里町に1、いわき市に13の計14が設置されている。いわき市内に設置された仮設住宅の入居開始月と自治会設立月は以下の通りである(表1)。

表1 各仮設住宅の入居開始・自治会設立時期<sup>2)</sup>

仮設名	入居開始月	自治会設立
飯野	2011年7月3日	2013年7月26日
高久第五	2011年7月1日	2011年8月30日
高久第六	2011年7月4日	2011年8月30日
高久第八	2011年7月10日	2013年6月4日
高久第九	2011年8月3日	2013年3月25日
高久第十	2011年7月27日	2011年12月18日
上荒川	2011年9月5日	2012年7月4日
作町一丁目	2011年10月24日	2011年12月22日
内郷白水	2011年10月24日	2011年12月22日
四倉町細谷	2011年10月24日	2012年1月12日
常磐銭田	2012年3月31日	2013年7月11日
林城八反田	2012年7月13日	2012年12月21日
小名浜相子島	2013年2月24日	2013年5月24日

この表を見てもわかるように、入居開始のタイミングと自治会設立のそれに1年以上のラグがある仮設住宅もある。檜葉町については入居者の合意により自治会が設立することになっていて、ラグがあった仮設住宅では住民たちにとって必要性が感じられなかったなどの理由により、合意が得られなかったところである。ただし、それらの仮設住宅でも情報伝達や役場など外部との窓口という機能も果たす自治会の存在が要されるということになり、設立に至っている。

次節以降では檜葉町民が入居する仮設住宅の現状と期待、帰町後の行政等に対する期待を把握することを通じて、仮設内コミュニティ施策を検討する。

## 1.2 調査の概要

檜葉町の仮設住宅入居者を対象に2015年9月～10月に実施した(飯野、常磐銭田を除く)。回収結果は243名であった(詳細は『檜葉町コミュニティ調査【最終版】』を参照)。また、仮設住宅への入居戸数については表2の通りである。

調査内容は2012年夏に実施した調査項目をベースに、1)震災前の行政区や地域とのかかわり、2)震災後の行政区や地域とのかかわり、3)仮設住宅転居後の生活、4)今後の帰町・集団移転に対する意向、5)基本属性、としている。

回答者属性は性別では男性59.7%・女性36.2%・不明4.1%、年代別で20代2.1%・30代2.5%・40代6.6%・50代9.9%・60代29.6%・70代30.9%・80代以上12.3%・不明6.2%、同居人数別では0人31.3%・1人以上62.9%・不明5.8%であった。

表2 仮設住宅入居戸数の変化(いわき地区)<sup>3)</sup>

仮設名	全戸数	戸数				集計上の分類
		11年末	12年末	13年末	14年度末	
飯野	16	16	16	14	15	小規模
高久第五	18	18	18	18	17	小規模
高久第六	17	16	17	16	17	小規模
高久第八	123	122	123	123	118	大規模
高久第九	193	191	193	191	187	大規模
高久第十	200	200	200	200	193	大規模
上荒川	241	237	239	236	235	大規模
作町一丁目	57	57	57	57	57	中規模
内郷白水	61	61	61	60	59	中規模
四倉町細谷	40	40	40	40	39	小規模
常磐銭田	50		45	43	47	小規模
林城八反田	106		103	103	95	中規模
小名浜相子島	40		34	37	34	小規模
いわき市計	1,162	958	1,146	1,138	1,113	

次節以降の分析では仮設の分類について、100世帯以上を「大規模」、50世帯以上100世帯未満を「中規模」、50世帯未満を「小規模」の3つに設定する。ただ、大規模でもいわき市内設置の「大規模」と会津美里町設置の「大規模 会津」とする。その理由であるがいわき市内と会津地方の状況が地理的、気候的などの要因により大きな違いがあるからである。さて、以下では各々の規模における共通性/差異性を確認していくことにする。

## 1.3 仮設住宅自治会の実態と期待

### (1) 住民側の実態と期待

まずは仮設住宅での日常活動・行事への参加について確認する(表3)。全体について多いのは順に「清掃美化」(74.5%)、「体育活動」(37.4%)、「総会や役員会」(31.3%)などである。規模別で見ると、小規模仮設で多いのが「懇親行事」(44.4%)、中規模では「総会や役員会」(42.6%)、大規模の会津では「説明会・勉強会」(60.0%)や「季節行事」(50.0%)で

ある。ちなみにいわきの大規模仮設では「季節行事」(18.5%)が低い結果となっている。

表3 自治会活動・行事への参加<sup>4)</sup>

	調査数	ごみ処理 収集協力、地域 の清掃美化	ラジオ体 操、運動 会等の体 育活動	自治会の 総会や役 員会	賠償等の 説明会・ 勉強会	新年会・ 忘年会、 盆踊り・夏 祭り等の 季節行事	食事も・ 飲み会、 旅行等の 懇親行事	資源・廃 品回収
合計	243	74.5	37.4	31.3	27.2	24.7	23.9	16.5
規模								
小規模(50世帯未満)	18	∴ 88.9	↓ 16.7	38.9	16.7	27.8	△ 44.4	11.1
中規模(100世帯未満)	54	72.2	∴ 46.3	↑ 42.6	27.8	31.5	29.6	20.4
大規模(100世帯以上)	151	76.2	36.4	30.5	23.8	↓ 18.5	21.2	13.2
大規模 会津	20	▽ 55.0	40.0	-	▲ 60.0	▲ 50.0	∴ 10.0	△ 35.0
	調査数	冠婚葬祭	防災訓練	集会所、 街灯や公 園・広場、 私道等の 施設・設 備管理	防犯・防 火・パト ロール、 交通安全 対策	高齢者・ 障がい者 福祉	乳幼児・ 学童保育 の支援、 青少年教 育・育成	ひとつも ない
合計	243	10.3	8.2	6.2	5.3	4.9	0.8	11.5
規模								
小規模(50世帯未満)	18	11.1	11.1	-	-	-	-	5.6
中規模(100世帯未満)	54	14.8	5.6	5.6	3.7	5.6	-	9.3
大規模(100世帯以上)	151	9.3	7.9	7.3	6.6	6.0	1.3	11.3
大規模 会津	20	5.0	15.0	5.0	5.0	-	-	↑ 25.0

次に仮設住宅でおくる生活上の問題点について確認する(表4)。全体の多い順で見ると「名前を知らない人が多い」(46.9%)、「ルールを守らない住民の存在」(23.9%)、「施設の痛み」(21.8%)、「他仮設住宅等との交流が少ない」(20.6%)、「住民の高齢化」(18.9%)などである。規模別では小規模で「ひとつもない」(27.8%)、いわき市内大規模で「買い物施設の不足」(19.9%)、会津の大規模で「異なった自然環境への対応」(40.0%)や「相談相手の不足・不在」(20.0%)と地理的・気候的な要因が多いものと推察できる。ちなみにいわき市内大規模でやや多いので「高齢者や単身者などの孤立化」(13.9%)や「声の大きいものだけの意見が尊重」(12.6%)というような特徴が確認できた。

表4 生活上の問題点

	調査数	名前を知らない人が多い	自治会のルールを守らない住民の存在	建物等の施設の痛み	他仮設住宅等との交流が少ない	住民の高齢化	住民間のトラブル	自治会等が主催行事への住民参加が少ない	仮設周辺地区の人との交流がない	商店・スーパー等の買い物施設の不足	ゴミ処理の問題	一部のものだけが参加
合計	243	46.9	23.9	21.8	20.6	18.9	18.5	15.6	14.8	14.4	14.0	12.8
規模												
小規模(50世帯未満)	18	▽ 22.2	11.1	11.1	11.1	∴ 5.6	16.7	16.7	16.7	5.6	11.1	5.6
中規模(100世帯未満)	54	42.6	25.9	∴ 13.0	18.5	∴ 11.1	13.0	∴ 22.2	13.0	∴ 7.4	14.8	11.1
大規模(100世帯以上)	151	51.0	24.5	24.5	22.5	22.5	20.5	12.6	16.6	↑ 19.9	15.9	13.9
大規模 会津	20	50.0	25.0	∴ 35.0	20.0	25.0	20.0	20.0	5.0	-	-	15.0
	調査数	移動や交通の問題	仮設周辺地区のことがわからない、把握できない	高齢者や単身者などの孤立化	世代間のズレ	自治会役員の手不足	声の大きいものだけの意見が尊重されている	ひとり暮らしの高齢者への対応	相談相手の不足・不在	異なった自然環境への対応(雪降ろし等)	とりまとめ役の不在	ひとつもない
合計	243	11.9	10.3	10.3	9.9	9.5	9.1	8.6	8.2	8.2	7.8	10.7
規模												
小規模(50世帯未満)	18	5.6	11.1	-	16.7	16.7	5.6	-	5.6	-	∴ 16.7	△ 27.8
中規模(100世帯未満)	54	14.8	11.1	5.6	11.1	7.4	∴ 3.7	9.3	3.7	13.0	∴ 1.9	5.6
大規模(100世帯以上)	151	12.6	9.9	∴ 13.9	9.3	8.6	∴ 12.6	9.3	8.6	▽ 3.3	9.3	9.9
大規模 会津	20	5.0	10.0	5.0	5.0	15.0	-	10.0	↑ 20.0	▲ 40.0	5.0	15.0

続いて仮設住宅自治会への今後の期待をしてみよう(表5)。全体で多いのが「帰町・集団移転等の転居に関する情報提供」(30.0%)、「現在の区や町内の情報提供」(24.7%)、「帰町・集団移転等の転居に関する生活相談」(21.0%)となっていて、調査年であった2015年9月の解除に向け、仮設自治会に何らかの施策を求めていることがわかる。規模別で見ると、小規模仮設ではここでも「ひとつもない」(50.0%)、「交流・懇親イベントの開催」(22.2%)が他の規模の仮設よりも多くなっている一方で、「帰町等の転居に関する情報提供」(11.1%)や「現在の区や町内の情報提供」(5.6%)は他の規模と比べて少ない。小規模ゆえのふだんからのつながりからか、情報に関する期待が低いことは注目される。他ではいわき市内大規模で「帰町等の転居に関する情報提供」(36.4%)が他と比べても多く、先の小規模とは逆の要因によるものではないだろうか。

表5 仮設住宅自治会への期待

	調査数	帰町・集団移転等の転居に関する情報提供	現在の区や町内の情報提供	帰町・集団移転等の転居に関する生活相談	国や自治体との賠償等の交渉	災害(復興)公営住宅の入居に関する相談	説明会開催等の賠償に関する情報提供	仮設住宅内のトラブルや問題の解決	現在の生活に関する相談	付近住民との交流・懇親イベントの開催	飲み会や旅行等の交流・懇親イベントの開催	ひとつもない
合計	243	30.0	24.7	21.0	18.1	14.8	14.0	13.6	12.3	11.1	7.8	24.3
小規模(50世帯未満)	18	↓ 11.1	↓ 5.6	16.7	11.1	5.6	5.6	11.1	11.1	11.1	△ 22.2	△ 50.0
中規模(100世帯未満)	54	∴ 20.4	20.4	16.7	14.8	11.1	14.8	14.8	9.3	9.3	9.3	27.8
大規模(100世帯以上)	151	↑ 36.4	28.5	23.8	20.5	16.6	15.2	13.2	12.6	12.6	6.0	∴ 19.2
大規模 会津	20	25.0	25.0	15.0	15.0	20.0	10.0	15.0	20.0	5.0	5.0	30.0

## (2) 自治会側の対応

2012年冬から現在まで各仮設の自治会会長へ継続的に聞き取り調査を行っている。それらの結果から、問題意識は以下のように変化していることがわかる。

### 【小規模仮設】

- ① 飯野：トラブルは少ない  
トラブルは少ない→名簿提供がはじまった
- ② 高久第五：仲がよい  
高齢者・障がい者を優先的に入居→他からも「仲がよい」といわれる
- ③ 高久第六：まとまりがよい分、来ない人が目立つ  
世代の近さと小規模さゆえの密接な交流→まとまりがよい→全然来ない人もいる
- ④ 四倉細谷：自立に向けた活動が必要  
周辺地区との交流あり→(他人任せでなく)自分たちでやっていかねばならない
- ⑤ 小名浜相子島：周辺地区との交流が必要  
区長とのやりとりは頻繁にあり→月1回のゴミ拾いに参加

このように小規模仮設はその特性を活かし、仮設内での交流が進むとともに、近隣との関

係も構築しているところもある。

#### 【各中規模仮設】

- ① 林城八反田：近隣住民との関係が構築されるも、たがが外れつつある  
近隣との交流は不可欠→地元区会や近隣仮設との交流あり→たがが外れてきた
- ② 内郷白水：最近になり、たがが外れてきた  
近隣との交流あり→仮設間の交流はない→たがが外れてきた
- ③ 作町一丁目：仮設間のつながりを求めるも実現に至らず  
仮設間のつながりがほしい→連絡会議は役場主導→他仮設とのやりとりなし

中規模仮設については2015年の段階で「たがが外れつつ」ある状況とのことである。これは小規模仮設ほど「目が届かない」ことがそうした状況に導いてしまったのだろうか。

#### 【大規模仮設】（会津含む）

- ① 高久第八：トラブル解決に寄与した自治会も飽きられてきた  
「長」不在で問題解決困難→参加者の固定化→自治会のあり方要再考
- ② 高久第九：自治会解散  
コミュニケーションが取れていない→住民の窓口としての自治会→自治会解散
- ③ 高久第十：参加への工夫  
相談役の存在→告知・関与のさせ方に工夫
- ④ 上荒川：まとまりが必要  
大規模すぎて把握困難→いづらか落ち着いてきた→一つの集合体としてのまとまりが必要
- ⑤ 会津宮里：マンネリ化  
入居者が減りトラブルも減少→マンネリ化

大規模仮設はその住民の多さにより把握が難しく、入居開始当初から「トラブル」が多かったといえる。ただ、年が経つにつれてそれも落ち着いてきたものの固定化/マンネリ化を招いてしまい、結果として活動の衰退に至ってしまっているようだ。

ここまでは各々の仮設住宅「内」の議論であったが、次節では各仮設「間」の情報共有と交流を目的とした「自治会長連絡会議」について確認することにする。

### 1.4 自治会長連絡会議の課題

自治会長連絡会議は楢葉町生活支援課が事務局となり、会長や副会長は仮設自治会長から選出されており、年数回の会議がいわき市内で開催されている。主な目的は役場—仮設自治会、仮設自治会—仮設自治会、といった間での情報共有や意見交換の場づくりということに

なっていた。

しかしながら、各仮設自治会長らへの聞き取りによれば、この会議は情報共有の場にはなっているものの、役場が主体となって運営されており、自治会主導による問題解決の仕組みにはなっていないということである。

① 情報共有・意見交換の場にはなっている

町からの情報提供、自治会の要望を伝えることがメインの会合である (高久第九)

② 問題解決に至らず

仮設住宅の使い方(倉庫代わりなど)についての話が出た。ただ、家賃(の補助)が出なくなればこうした問題はなくなるので、しばらく待ってみれば…という話になった(内郷白水)

③ 役場任せ

一から十まで町任せの感じがした。自分たちで解決しようとはしないで「責任は町にあるから」という姿勢である(四倉細谷)

役場の担当課とそれに関連する資料の分析が必要であるので、これだけでは断定できないのだが、役場だけでなく自治会側の姿勢にも問題があるということがうかがえる。もしかすると、自治会自体がそれぞれ「ムラ」になっていて、その「ムラオサ」同士が連携して物事を進めていくには各々の個性が強すぎて、なかなか難しいことをこの状況に至らしめているのかもしれない。このようなことは富岡町からの避難者が入居している三春町内の6つの仮設住宅自治会で結成された「連絡協議会」でもなかなかつこんだ連携が進まなかったことから傍証ではあるものの、推察できる。

## 1.5 帰町に向けた課題

### (1) 住民側の期待

前節までは「これまで」の仮設住宅をめぐる状況について確認してきた。冒頭にも論じたが、楢葉町については2015年9月5日に町内全区域で避難指示解除になっているため、入居者たちは今後は帰町などに向け、いずれにせよ「仮設住宅から出る」時期をやがて迎えることになる。そうしたなかで、帰町に向けた課題について確認することにしよう(表6)。

今後の生活再建に向けた支援への期待について、全体で4割以上になっているものは「医療・福祉施設整備の情報提供」(52.7%)、「警察の見回り等の防犯体制の強化」(52.3%)、「放射線量の情報提供」(47.7%)、「医療・福祉施設の移動に関する問題解消」(47.3%)、「買い物の移動に関する問題解消」(44.0%)となっている。この段階で入居している人たちは比較的高齢者が多いことから、医療・福祉、防犯といった問題に加え、移動にかかわる不安もあることがうかがえる。規模別で見るとどうだろうか。

小規模仮設入居者でとりわけ多いのが「行政区にあった人づきあいの維持」(55.6%)、「商

業施設整備の情報提供」(44.4%)、「公共交通機関整備の情報提供」(38.9%)である。特に「人づきあいの維持」について、小規模仮設での関係が構築されている一方で、楢葉町での行政区の活動は一部を除いて総会以外はほとんどないのが現状である。そして、広野町を例に見るまでもなく、避難指示が解除されたといっても一斉に戻るわけではない。そうした不安がこの結果が示しているものいえる。そのほかの「商業施設」や「公共交通」についてはやはり高齢者であると、自分で自家用車を運転しての移動に不安を抱いていることをうかがわせる結果である。

中規模仮設は全体と同様な傾向であるため、いわき市内にある大規模仮設について確認する。多いものとしては「放射線量の情報提供」(53.0%)、「賠償関連の情報提供」(36.4%)、「賠償関連の手続き支援」(32.5%)であり、いわゆる原発事故関連の 이슈ーに対する情報提供を2015年秋の時点で求めていることがわかる。これをどのように読み取るかは難しいところであるが、震災から4年がたった中でこのような情報提供を求めていること自体が、こうしたことを仮設住宅内で相談が出来なかったという証なのだろうか。

最後に会津の大規模仮設についてである。割合としては2割以下であるが、全体と比べて特に多いのが「ひとつもない」(15.0%)である。その他の項目についてみると全体より低いものが多く、生活再建への支援はこの仮設住宅の入居者はあまり求めているのであり、そうした意味では「自立」しつつあるのだろうか。

このように帰町に向けて、仮設の規模で見るとその支援内容が異なっていることがわかる。これは2015年秋に至るまでの各々の仮設住宅での生活とその内外でのやりとりがこのような「分化」を招いたものと考えられ、従って支援の入り方もこうした規模別での対応が求められるのではなかろうか。

表6 自身の生活再建への期待

	調査数	医療・福祉施設整備の情報提供	警察の見回り等の防犯体制の強化	放射線量の情報提供	医療・福祉施設移動に関する問題解消	買い物の移動に関する問題解消	高齢者向けの介護等の支援	賠償関連の情報提供	賠償関連の手続き支援	行政区にあった人づきあいの維持	商業施設整備の情報提供
合計	243	52.7	52.3	47.7	47.3	44.0	34.2	31.3	27.2	26.7	26.7
規模											
小規模(50世帯未満)	18	66.7	55.6	55.6	55.6	44.4	38.9	27.8	16.7	▲ 55.6	↑ 44.4
中規模(100世帯未満)	54	48.1	51.9	40.7	46.3	44.4	38.9	∴ 22.2	20.4	20.4	20.4
大規模(100世帯以上)	151	54.3	53.6	∴ 53.0	49.7	46.4	32.5	∴ 36.4	∴ 32.5	28.5	28.5
大規模 会津	20	40.0	40.0	▽ 20.0	▽ 25.0	↓ 25.0	30.0	20.0	15.0	▽ 5.0	15.0
	調査数	公共交通機関整備の情報提供	自宅の工事進捗に関する情報提供	仮設住宅にあった人づきあいの維持	町や外部団体による生活支援	自宅の設備・家賃に関する情報提供	交流・懇親スペースの充実	その他移動に関する問題解消	新たな交流・懇親サークルの結成	子供の学習支援	ひとつもない
合計	243	21.8	17.3	13.2	11.9	9.9	9.1	8.2	6.6	6.2	3.7
規模											
小規模(50世帯未満)	18	↑ 38.9	16.7	22.2	16.7	5.6	11.1	∴ 16.7	-	11.1	5.6
中規模(100世帯未満)	54	20.4	11.1	14.8	9.3	13.0	7.4	11.1	9.3	5.6	3.7
大規模(100世帯以上)	151	21.9	19.9	12.6	12.6	9.3	10.6	7.3	7.3	6.6	2.0
大規模 会津	20	10.0	15.0	5.0	10.0	10.0	-	-	-	-	▲ 15.0

## (2) 自治会側の認識

こうした一般住民側の期待に対して、仮設自治会側はどのように考えているのだろうか。各自治会役員への聞き取り結果から集約すると以下ようになる。

### ① 仮設自治会活動の充実が帰町をうながす

自治会／組織体をしっかりつくっていけば帰町につながるのではないかと。意思疎通するための組織体を残すべきである。変に分散しているのではないかと。手作りの新しい、今後のまちづくりの基礎に(自治会などが)なるべきではないかと。これを行政に誘導してもらいたいが、中途半端になっていると思う(大規模：上荒川)

### ② インフラよりも家族の状況がポイント

親世代と一緒に住むかどうかの問題となっている。高齢の親をどうするか、親だけを帰すのは現実的ではない(子供世代はいわきに留まる)。そうすると、「帰れない」となってしまう。インフラとかではなく、家族の状況による(中規模：内郷白水)

### ③ 医療・福祉、学校、買い物施設＝生活機能の整備

高齢者は戻りたいようだが、子育て世帯は子供の学校とかの問題で難しいようだ。買い物や病院などの問題もある。年取ると車が乗れないので、タクシーで移動している(小規模：飯野)

現状のコンビニ、スーパーだけでは不便であり、医療機関もないのでまだまだ帰れない(中規模：作町一丁目)

震災後、各々の仮設住宅の入居がはじまってからある意味で(自身もそうであるが)もともと避難者に「寄り添った」存在が仮設住宅で設立された自治会の役員ではなからうか。2012年からの筆者らによる仮設／借り上げ住宅の入居者らへの継続的な聞き取りによっても、榎葉町の区会の多くは総会以外、ほとんど活動らしいものがなかったのであり、少なくとも仮設住宅入居者にとっての住民組織は「仮設住宅自治会」だったのである。その自負が①の発言にあらわれているのではなからうか。

より住民側に立って色々な悩みや問題を聞いていた自治会役員にとって、②や③の問題は至極当然のことと考えている。こうした問題がどれだけ役場や県に対して伝達・認識されるだけでなく、施策として反映させていくかが今後の課題ということになる。

## 1.6 帰町に向けた仮設住宅自治会の役割

### (1) まとめ

これまでの議論をまとめよう。現在の生活上の問題点は以下の通りである。

小規模仮設：「とりまとめ役不在」「役員のみ手不足」

中規模仮設：「参加の少なさ」「世代のずれ」「周辺地区」、

大規模仮設：「リーダー不在」と「孤立化」



仮設自治会への期待は

小規模仮設：「交流・懇親イベント開催」

中規模仮設：「賠償等の交渉」

大規模仮設：「転居に関する生活相談」

である。

また、役場と仮設自治会との交流などを目的として設立された自治会長連絡会議は情報共有の場にはなっているが、自治会主導による問題解決の仕組みにはなっていないことも明らかにした。

そして、帰町後の生活再建支援への期待は

小規模仮設：「区の人づきあい維持」「商業施設・交通機関の情報提供」

中規模仮設：「医療福祉」「防犯」「懇親」

大規模仮設：「医療福祉」と「交流」

となっている。また、地域による安全・安心を構築する取組が帰町をうながすとした。

これらの結果から、今後、仮設自治会や区会といった住民組織は何をする必要があるのだろうか。ここまでの議論をふまえて、論じていきたい。

## (2) 住民組織（仮設自治会・区会）が出来ること

2012年に実施したアンケート調査（松本2013）によると、町民の帰町・帰還意識を高めるのは「こまめな情報伝達」と「町民間のネットワーク維持」が必要であるとした。以下では仮設自治会の他に、戻り先の「区会（行政区）」の取り組むべき内容を検討する（図）。

### 1) 情報発信

仮設自治会：広報だけでなく、医療福祉、商業等の施設整備に関する情報提供を回覧板等による周知徹底を図る。また、各区会の現況（各行政区状況一覧等）の情報発信も回覧板等により同様に行う。

区会：より身近な情報発信が必要。家族・隣組単位の帰町等の現況に関する情報、放射線量、更には安全・安心への取り組み（見回りなどの防犯体制）の周知を図る。

### 2) 交流・懇親

仮設自治会：情報発信・伝達の間としての交流・懇親会を開催し、帰町等に関する情報交換を促す。必要に応じて複数の自治会による連携にて実施する。

区会：区・隣組や班単位での交流・懇親会を定期的に行い、帰町後の生活に関する情報共有（買い物、医療福祉、防犯等）を行えるようにする。単独の区単位で難しい場合は、区会連携によるサロンを開設・運営を行う。

これらの取り組みは外部支援団体を活用しつつも、町民自らが主体となって進めていくことが求められる。一方の行政の役割として考えられるのは、上記帰町等への取り組み主体は

町民・住民組織であり、役場・県は制度設計、資金的な支援に特化するのによいのではなからうか。

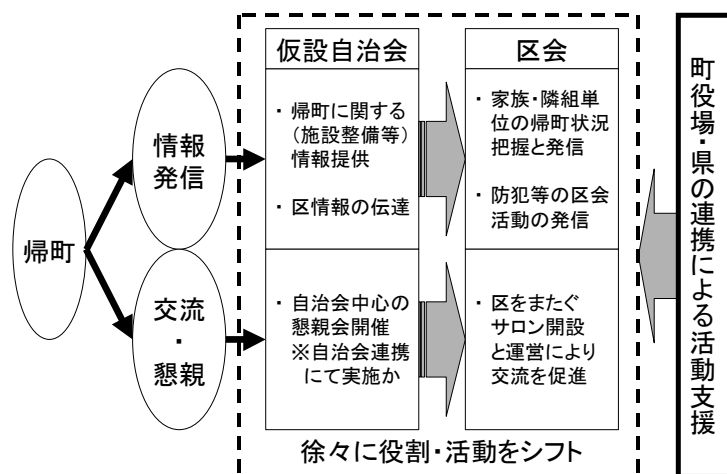


図 帰町に向けた情報発信／交流・懇親展開イメージ(案)

## 注

- 1) 本章は2015年冬に各仮設住宅自治会長へ配布した『檜葉町 ○○仮設住宅動向 まとめ』に加筆修正したものである。従って、3章と重複する部分があることを留意されたい。
- 2) 町役場提供資料と仮設住宅自治会長らへの聞き取りから筆者作成。
- 3) 町役場提供資料から筆者作成。
- 4) 分析は集計ソフト Assum for windows で行っている。全体との有意差を示す記号を ▲▼ : 1%、△▽ : 5%、↑↓ : 10%、∴ : 20% とする。
- 5) 当然ながら、こうした人たちへの聞き取りは必要であり、今後の課題としたい。